

令和五年十一月吉日初版作成

宇宙神の愛

高嶋善三郎

目次

- 大宇宙のすべての根源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 宇宙神の二つの現われ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 愛の神としての現われ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 宇宙人、宇宙天使の地球への援助・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 宇宙神の愛の心から生まれた宇宙子科学・・・・・・・・・・・・7
- 宇宙神の究極の波動が降ろされている絵図面・・・・・・・・・・8

お願い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、「感想があれば、お聞かせください。」

次の連絡先にお問い合わせします。

（スマホ）09033466619

（アドレス）zensan@peach.ocn.ne.jp

大宇宙のすべての根源

五井先のお言葉であったかと思いますが、「究極の真理について語ることは、宇宙神に対する最高の奉仕である。」また「形のないもの（神、宇宙法則、究極の真理）を見、聞き、語り、感じ、呼吸できる境地に至ることこそ人生の醍醐味であり、悟りである。」があります。宇宙神の存在等について、出来るだけ詳しく教えてください。

五井先生によると、宇宙神は、天地に先立って、大宇宙のすべての根源であるという存在であります。宇宙神のみ心というのは、そのまま完全であり、大調和していたのですが、種々な世界を創造するため、各種に分かれた光の波動として働かされたのです。まず大きく陰陽とわかれ、それがもっと複雑になり、各種の光の波動として分離し結合して、様々な状態や物質を生み出していったのです。

宇宙神の根源の働きは、人類世界の根源としては七つの直霊として分かれたほか、動植物鉱物の根源としても各種の霊波動として分かれて働き始めたのです。

宇宙神そのものは、絶対者であって、その波動は無限大の大きな振幅を持つ働きから、無限小の微妙なバイブレーションを持つ働きの両面が内在しており、その光明が各種の働きとして分かれた時には、その各種の神々の光明波動の振幅は異なるものとなっているのです。

その波動が大きな振幅を持つ面の働きとしての神々（光明）と、微妙な

波動の働きをもつ神々（光明）とが縦横として分かれたのです。微妙なひびきを持つ神々の働きは心の働きつまり精神面として靈魂の働きとなり、大きな振幅の波動を持つ横の面の神々の働きは、魄的つまり物質面の働きとなって現れているのです。

そして、この縦横が十字に交叉して、肉体をもつ人類をはじめ、すべての生命体をもつ、物質が生まれ出でたのです。ですから鉱物にでも生命があるといえるのです。その生命のひびきは、実にその振幅が大きく緩慢で、さながら、生命がないと同様な物質体に見えるのです。植物や下等な生物は、すべて波動の振幅の大小によって、その生命のひびきの感じが違ってくるようになります。（略）

他の（進んだ）星の人類は、波動の実体をはっきり把握して、宇宙科学を生み出し、大調和世界を築き上げているのです。

宇宙のあらゆる波動をいかに組み合わせるべくかによって、地球の運命も定まって来るのです。そのまず最初にやるべきことは、自分みずからの波動の調整にあるのです。『白光誌』1962年8月号ページ100）と言われています。

その他詳しい説明については、後の項目で言及することとします。

宇宙神の二つの現われ

『天と地をつなぐ者』174ページによると、宇宙神は二つの現われをしていると言われています。

一つ目の現われは、法則としての神です。最も典型的な法則は、因縁因果の法則（因果律）です。

そして二つ目の現われは、『神は愛である』という神です。それは守護神としての神である。宇宙に満ち満ちている生命という神ではなく、人間と等しい愛念をもつ神です。

法則としての神の現われを正しく理解することが必要ですが、それだけでは十分ではなく、『神は愛である』という神を理解し、その愛を感じ謝で受け入れることが真の救いを体得する上で、極めて大切だと言われています。

それはなぜかという、法則のとおりに自分の心を自分で乗せてゆかなければ、決して救われることはない。しかし法則から外れてしまった自分だけでまたもとの法則の上に自分を還すことは、ほとんどできないと思われるほどの難事なのです。ここでは神の必要もなければ、宗教の必要もなくなってくるのです。そこにつけ入ってくるのが、低級なる現世利益のみの宗教であり、そうした宗教では、その人の真の利益、魂の浄まりは、まるで無視して、ただ単なる目先の現世利益だけを得させ、それによつて後にその人の魂がどのように苦しみ損するかは問題外だからです。すがつてゆく人間にとってはその場の苦しみだけを問題にしているのですから、その場がとにかく過いせれば、ありがたいご利益となるわけです。これが邪教の反乱となつてゆくのです。

今日正しいと称される宗教が、前にいったような誤りを意識せぬ理論的宗教論になっていて、いかにその理論が正しそうに見えていても、その底に愛情を感じさせぬような法則論の宗教では、民衆はついてきませ

ん。たとえ邪教であっても現世利益の多いほうに民衆はついてゆくと解説されています。

それではまず、『天と地をつなぐ者』の中で説明されている、二つの現われについての内容を見てみましょう。

『宇宙神の一つの現われは法則としての神である。無念、無相、無情、ただ大生命として無限なる流れである。その流れの一つ一つとして人間の小生命がある。その小生命となった時、はじめて、幽質ができ、普通物質と呼ばれる肉体ができたのである。そして、その小生命が幽魂となり、肉体として個々に分かれたという意識によって、自己を守る本能が生じ、欲望が生じ、業生の世界になってきたのである。このまま放置しておけば、この世界は業生の渦の中については消滅し去ることは必然なのである。それは、この世界を、まともに見つめ得る人の誰もが思い至るところなのである。法則である神は、無念であり、無相であり、無情である。法則に情があれば法則でなくなる。無念であり、無情であるものが人類を救おうと思うわけがない。まいた種はまいた種そのままの实になる。それが法則である。怒りは怨みとなつてかえり、怒りは怒りとなつてかえり、悲しみは悲しみとなつてかえる。これが法則である。』

そのほか法則としての神の現われとして『老子講義』第九講（弊るれば則ち新たなり）に次のように説明されています。

「病気や不幸や、国と国との間では戦争などという、弊（やぶ）れる状態は、私たちの古い自己の習慣性、古い事物への把われの想念波動が、

消されてゆく姿として起こっている。これは、常に自己なり、人類なりを高め深めて、真実の神の子と成し、神の世と成すための、神のみ心としての新陳代謝の原理なのである。

宇宙科学的に言えば、この地球世界も精神と物質の調和によって成り立っているが、この精神と物質はそれぞれの宇宙子（波動）によって構成されており、常に新陳代謝して、瞬々刻々古いものと新しいものが代ってゆくのである。」と。

また昌美先生は、『神示 1997年5月18日（日）富士聖地における「人類即神也の印による世界各国の平和の祈り」の参加条件』において法則としての神の現われとして次のように、解説されています。

「宇宙究極のエネルギーは、人間を通過せず、今生に現れることは絶対でありえない。人間の肉体は、神に似せられて作られし極めて高度なる組織体であるため、宇宙神そのものの至高のエネルギーを媒体におさめ、知覚し、肉体のヴァイブレーションと合体し、変形させ、それによって、全人類に対して神の無限なるすべてを表現し示してゆく。

絶対なる法則は常に大調和に向かって進化発展しつづけており、人類がもたらした否定的想念、暗黒想念をそのままいつまでも蓄積しつづけて、人類自らがそのことにまだ気づかずにいれば、法則そのものが介入して人類に真理を知らしめんとする。すると、蓄積された彼らの否定的、暗黒想念のヴァイブレーションが彼ら自身に自然発生的に反射する仕組みになっており、よって、戦争、闘争、病氣、飢饉、天変地変と不調和や破壊が生じ、人類に意識変革を迫る」と。

本心（神聖）の働き方も、宇宙神の法則として働きののです。私達が何を選択するか、また何に意識を集中するかによって、それらを実現するために瞬時にエネルギーを注いでくれるのも法則でなされているのです。良い選択等をすれば、いい結果が実現されるのも、一方神のみ心から離れた選択等をすれば、不調和の姿をそのまま現わすのも無念、無相、無情、ただ大生命として無限なる流れとなされているのです。

愛の神としての現われ

もうひとつの現われは『神は愛である』という神であり、法則の神ではなく、守護神としての神である。宇宙に満ち満ちている生命という神ではなく、人間と等しき愛念をもつ神です。

宇宙神は、愛の神の現われとして、天に守護神を地に守護霊を現わし、宇宙の法則から外れた人間（分霊）が宇宙の法則に乗れるようにしてくださっているのです。

分霊が肉体の因縁の中に閉じこまれ、各分霊だけの力でこの因縁を越えることがほぼ不可能に近い状態であり、いよいよ業因を深めてゆきこの業因の隙間から神の光が差し込まぬ以上、人間は本来の神性に目覚め得ぬような事態になった時に守護霊、守護神を現わされたのです。

何故そのようなになったかという、一度発した念は必ず、その出発点に還る法則となっていて、この発した念即ち業因は還って果となり、因

果の波は時を経るにつれてしだいにその層を厚くし、分霊の肉体我を牢固としてぬくべからざるものとしていったからです。肉体我は粗い波動の波が起こしている自我であり、肉体という物質によって、自己と他とを区別しているものであって、まず各自が己を守ろうとする意識を起こすため、どうしてもお互いの利に反することが起こると、その利を守るために争わざるを得なくなるのです。ましてこの分霊が陰陽に分裂して男女となり、肉体人口が増えるにつれて、肉体我は自己と自己の一族のみを守ろうとし、そのようになったと言われています。

かかる過程にあって苦悩している分霊を救い、肉体界を浄め、宇宙神の意志そのもの世界とすることが、直霊の最初からの計画であったのです。そこで、各直霊は自己の光を分けて、分霊たちの守護神となし、守護神は、最初に肉体界の創造にあたった分霊たちを、業因縁の波から救いあげたのです。この分霊たちは、守護神となり、守護神に従って、ひきつづき肉体界に働く後輩の分霊たち、いわゆる、子孫の守護にあたることになったのです。そして分霊の経験の古いものから、順次に守護神となり、ついには各人に、必ず一人以上の守護神がつくまでになって、今日に及んでいるのです。この守護霊(支配霊・コントロールともいう)のなかには正守護霊と副守護霊とが定められたのです。

守護神は常に多くの守護霊の上にあって、守護霊に力を添えていったのです。各正守護霊はしだいに一人の肉体人間の専属となり、その主運を指導してゆくようになり、副守護霊は、おおむね、仕事についての指導してゆくようになっていったのです。直感とか、インスピレーションとかいうのは、これら守護霊からくる指導の念です。これは普通、自然

的行動のように行われ、何気なくある家を尋ねたら、よいことがあったとか、ふと左に歩みを運んだとたんに車がすれ違って、危うく難を除かれた、というように日常茶飯事の何気ない行為として守護している場合が多いと説明されています。

守護神守護霊は、人間が宇宙の法則に乗れるように、守護し、導いて下さっているのです。

それが、地球に向けられた宇宙神の愛の光を受け、私達を救済してくださっている、地球の守護霊守護神で構成されている救世の大光明霊団なのです。

宇宙人、宇宙天使の地球への援助

その救世の大光明霊団を援助する存在について、宇宙人、宇宙天使が現在地球に入ってきていると、『老子講義』には、次のように説明されています。

「今日では、宇宙の運行が、地球の位置を宇宙神のみ心の中心に一段と高めあげてくれるように運行されてきている。そうした運行のもとでは、今日まで地球上の強い勢力となっていた、悪のような姿、私のいう業想念波動が、急速に消されてゆく。そして、宇宙神のみ心に合致した正しい心的波動をもった人々や集団が、非常に働き易い立場に浮かび上がる状態に自然になってくる。

その一つの働きかけが、宇宙人、宇宙天使の地球への援助の手となっ

て現われてきている。この世はすべて波動の世界である。宇宙法則から外れた波動をすべて宇宙法則の軌道に乗りかえる運動が今こそ活発に行われることになるのである。」(『老子講義』第五講その身を後にして身先んじ・・)と言われています。

宇宙神の愛の心から生まれた宇宙子科学

五井先生の宇宙神への要請に応じて、宇宙人、宇宙天使の地球への援助として宇宙子科学は、生れたのです。

宇宙子科学は、どのように始められ、進展してきたのか、また私達は、どのような恩恵を享受しているのか、整理してみましょう。

「宇宙子科学というものは、宇宙神のみ心からそのまま現れているので、こちらが、宇宙神のみ心に波長を合わせていかなければ、宇宙人の教えを理解することが出来ない。地球科学の場合には、先人がやってきた道を土台にして、学問知識を下にして、現れたの側から、機械器具をもって、次第に奥深く、宇宙の本質に向かって突き、進んでゆく、つまり先人の学問という土台がある。一方宇宙子科学の場合は、まず、心のひびき、自分たちの出す波動を正しくしておくことがなされねばならない。想いは空(くう)又は空に近い状態にしておいて、そして宇宙人の講義を聞くという段取りになる。祈りにはじまって、知識を吸収し、そして、祈りに終わる、というのが宇宙子科学の在り方なのである。」

それ故宇宙の靈性の高度に開発された星々から送られてきた援助は、神界、靈界、幽界、肉体界の波動を自由自在に現わすことが出来る五井

先生の存在があり、その五井先生の意向を受け、昌美先生をはじめ宇宙子科学のメンバーの献身的な協力があったからこそ可能になったと言えます。(『白光誌』1992年9月号ページ26、10月号8〜10ページ)

「宇宙神のみ心は、宇宙心として、宇宙を貫いて光り輝いており、そのみ心の一番近くにある光の中心を宇宙核と呼んでいる。この宇宙核は、精神と物質のすべての中心の働きをしており、ここから、中心核、宇宙子核という、中心的な働きが生まれて出てきている。これらはすべて、生命光波動の働きであり、光そのものである。そして、この宇宙子というものが、お互いに種々と交流し合って、十数段階の交流を経て、現在地球科学でいわれている微粒子、つまり陽子とか中間子とか電子とかいう、形になってくる。この宇宙子は各種に交流しながら、分離し集合して、第二段階への働きに変化してゆく。私達のやっているこの宇宙子科学は、五十畳「一杯」くらいの大きなグラフ用紙に綿密なる計算の下に、様々な波動の図を画きながら説明されていく。これは金星の長老と呼ばれる宇宙人の中心者を囲んで、エアーカー・エンジェルスカラーと呼ばれる宇宙人が図解説明の中心となって、私達に判りやすく講義をしてくれる。その図面からは、金色燦然とした光明が輝き出でて、なんともいえぬ厳肅な雰囲気漂ってくる。そして宇宙人がいうには、この光明は宇宙の根源からくる大光明波動のひびきなのだ、皆が生命と呼んでいるひびきとひとつのものであって、皆はこの光によって生かされているのである。実際に研究者一同、常日頃靈波動を感じた事のないような人までも、この光明は心身に深く感じ取って、感謝の気持ちで一杯になる

ほどである。その生命波動は種々な段階を通過して肉体人間ともなり、動物ともなり、魚類鳥類鉱物ともなっている。宇宙子と呼ばれている生命波動の中には精神面の働きをもつものと、物質面へむかってゆく働きをもつものがあり、いずれも七つ七つの組み合わせとなって働いてゆくが、宇宙子の七つの組み合わせの中にも、精神波動一、物質面へ向かってゆく宇宙子六というのものもある。この組み合わせ方によって、人間生命と現われたり、鉱物生命として現れたりする。」(『白光誌』1962年11月号ページ57〜7)

「この図面を画いたことによって、天の理念が地にうつったのである。だから出来上がったのと同じなのである。宇宙子科学が本当に使える日、完成する日がうつつている。」と五井先生は言われています。(『白光誌』1962年12月号ページ200〜202)

宇宙神の究極の波動が降ろされている絵図面

また昌美先生によると、この絵図面は、「宇宙神の究極の波動が直接に到達し、その波動が地球上の核に吸い込まれてゆくのである。」また「この絵図面こそすべての波動を創造し調和させて、今生に究極の真理、そして究極の科学をもたらすものである」また「宇宙神から直接、絵図面に降ろされた部分は、絵図面の中心点となり、現実にすべてのものを生み出すエネルギーのスポットとして、今でも神域になっている。特別に許された者以外、その中心点に立つことも、触れることもできない。なぜならば、三十数年たった今でも、絵図面の中心点は、宇宙神と直接

に交流し、物凄いエネルギーを今生に放ちつつけ、偉大なる働きを為しているからである。その中心点から七つの異なった波動に分かれ、その一つひとつの波動はさらに七つずつの波動に枝分かれしてゆく。そしてその波動は様々な異なった波動となって、大いなる宇宙の法則のもとに結びついたり離れたりし、その過程において新しい波動を創造し、この地球上を大進化、大調和させている。この宇宙子科学の絵図面は、一般の目から見れば、ただの紙の上に描かれた数式であり、幾何学模様であり図面であるが、その奥に究極の無限なるエネルギーが蔵された、宇宙神そのものの働きなのである。今生において、宇宙神と時間・空間を超えて直結する唯一の場であり、宇宙神が直接、働かれる創造する場でもある。」(『白光誌』1999年2月号ページ9〜10)とされています。

絵図面に降ろされた、宇宙神の究極の波動によって、新しい進展がなされているのです。

2003年から続けられた宇宙究極の一筋の光を降ろすご神事を通して、2009年富士聖地が四次元になり、2010年の新年祝賀祭で、五井先生および大光明霊回、宇宙神の凄いエネルギーにより、私たちのチャクラは正しく開かれ、そして2017年に宇宙神から直接光を受け取ることが出来る神聖復活の印が降ろされたのです。この印は、宇宙子科学により究明された宇宙の原理をもとに、法則の現われとして降ろされているものですが、それを可能としたのは、宇宙神、救世の大光明霊回、宇宙人、宇宙天使の愛の現われがあったことを知った時、この印を組む有難さや喜びを一入(ひとしお)感じます。